株式会社金子製作所（製造業）

《職人集団に持ち込まれた「外部の風」を契機に、海外で戦えるものづくり企業への飛躍を図る》

◆ダイバーシティ経営の背景

- ・ 創業以来、技術向上に特化した経営を行ってきた反面、組織の硬直化を招き、新たなチャレンジを阻む風土になり、また、生産管理・品質管理の面でも顧客ニーズに十分に対応できていない面があった。それらを変えるべく、現社長の就任後、未経験で柔軟な発想のできる女性社員を採用することから始め、以降は多様な経歴やスキルを有する人材の、業界の常識や自社の慣習にとらわれない視点や発想を取り込んで、組織風土改革・新規市場開拓を図っている。

◆取組内容

- ・ 女性取締役（上記女性社員の現職）は元々経理担当者として入社、伝票整理のシステム化等の業務改革を先導した。経理という業務の特性上、人事考課や受発注、収益状況まで社内状況を数値として把握できたことに加え、客観的な視点から改善策を提案、社外の専門家等も巻き込んで制度・組織風土改革を実行した。
- ・ その後、大手企業からの受注に際し、生産管理・品質管理の徹底が経営課題となった。そこで社外から品質管理の経験者を募集、他社を退職した人材（62歳）を雇用し業務改革に取り組んだことで、2004年に航空宇宙産業の品質規格である JISQ9100 を中小企業としていち早く取得した。さらに、他社との差別化を図るため、2006年には薬事法に基づく医療機器製造業許可を取得するなどし、航空、宇宙、医療分野への展開を実現した。
- ・ また、女性取締役の提案で JETRO の海外展示会に出展したことをきっかけに、海外との直接取引が実現し、3年間で取引関係や商談準備等 10カ国弱の企業とのネットワークを構築した。海外展開に伴い、海外顧客との交渉担当として外国人を採用し、技術営業の担当として育成している。

◆成果

- ・ 社内外の多様なスキルや経験を有する人材に活躍してもらう環境を整備したこと、また、市場環境の変化に対応しながら新たな分野に積極的にチャレンジしていく風土が醸成されたことにより、国内大手企業の下請という立場から、海外市場で評価される優れた技術を持ったメーカーとして大きくブランド力を高め、売上高を約 10%近く拡大した。
- ・ 特に、医療・航空、宇宙分野等の成長産業分野の技術に携わるメーカーに成長したことにより、理系・文系問わず応募者が増え、5年間で約 40名程度の優秀な学卒人材の獲得にも成功している。

＜企業概要＞

設立年	1956年	資本金	16百万円
本社所在地	埼玉県さいたま市岩槻区古ヶ場 1丁目 3番地 13		
事業概要	内視鏡の先端部品の切削加工及び一部組立、航空機のエンジン関連部品の切削加工		
売上高(※)	921百万円 (※)直近決算期(2012年12月)		

＜従業員の状態（単体）＞

総従業員数	80人(うち非正規3人)
属性ごとの人数等	【女性】18人(うち非正規3人)、女性管理職比率 5.9% 【外国人】2人 【65歳以上】2人
正規従業員の平均勤続年数	男性 7年 女性 5年